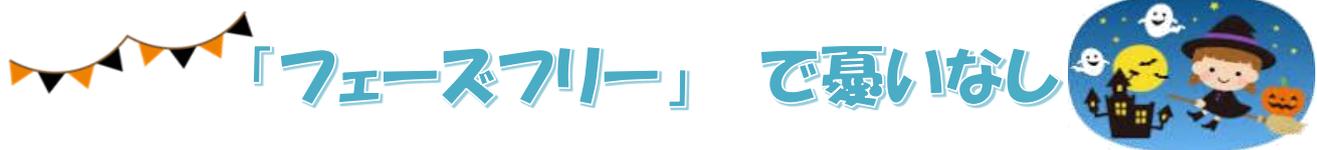


## ● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者 / 編 集 者	出 版
<b>社会福祉・教育課税</b>		
シン・防災論 「政治の人災」を繰り返さないための完全マニュアル	鈴木哲夫	日刊現代
被虐待児の視点からみる児童虐待対応法制度 その構想と制度「評価」の検討	根岸弓	生活書院
「発問」のデザイン 子どもの主体性を育む発想と技術	宗實直樹	明治図書出版
<b>経営管理</b>		
必然としてのサーキュラービジネス 「利益」と「環境」を両立させる究極のSX	磯貝友紀	日経BP
週休3日制の設計と規程・協定	荻原勝	経営書院
<b>白書</b>		
情報セキュリティ白書2024	独立行政法人 情報処理推進機構	独立行政法人 情報処理推進機構
令和6年版 障害者白書	内閣府	勝美印刷
<b>その他</b>		
縮んで勝つ 人口減少日本の活路	河合雅司	小学館
たったひとりでも、地方議員になれる	古谷健司	日本地域社会研究所



「フェーズフリー」の「フェーズ」とは「局面」という意味です。私たちは「災害」という局面に備えて、防災用品を用意してきました。そして「日常生活」という局面で使うものとは分けて考えてきました。

これに対して、フェーズフリーとは、災害と日常生活という局面の垣根を取り払い、「フリー」にして、どちらの局面でも役立つものを作っていこうという考えです。

和歌山市中之島の紀和駅前公園は、7年前に和歌山市で初めて災害への備えを持った公園として整備されました。災害時は周辺住民1000人の受け入れが可能です。「ベンチ」の座面の下に「かまど」が収納されている「かまどベンチ」があり、災害時に取り出して、炊き出しや暖を取る事が出来ます。

11個あるマンホールは仮設トイレに、ブランコや格子状の屋根がある休憩スペースはシートをかぶせれば、雨風を防げる応急の避難場所や救護室になります。

砂山今福防災公園も、普段は住民の憩いの広場として、いざという時には、避難場所として機能する公園です。ここにも「かまどスツール」「太陽光発電ユニット」「井戸」「仮設テントが合体するパーゴラ（藤棚のようなもの）」等があります。

これらの公園は遊びながら、くつろぎながら防災への意識を高める効果も期待できます。

「いつも」と「もしも」という2つのフェーズをフリーにして、モノを見ることで、子どもも大人も自然と「生きる力」「生きぬく力」が育まれると思います。

この視点はモノに対してだけでなく、ヒトに対しても同じだと考えます。

普段から、近所の一人暮らしの高齢者ことや、障がいがある方が、もしもの時にどのように避難されるのだろうと、思いを馳せ、「おはようございます」「こんにちは」の声掛けから、顔の見える関係を構築し、災害について話ができるようになれば、災害に強い街になっていくのではないのでしょうか。まずは自分から。

